旧城山町の歴史

本会理事　八木　久雄

１、城山の由来

志賀城跡

旧城山町は、かつて寺野郷と呼ばれていた地域のことを指す。

城山の由来には、２つの説がある。一つは、南北朝期からこの辺りに豪族が居城「八幡城」を構えたという説である。

もう一つは、戦国末期、大友氏が除封された後、大友宗麟の後妻に従って長崎に亡命した大友の重臣初代志賀親成が、現在長崎護国神社が建立されている小高い丘に城砦「志賀城」を構えたという説である。

２、庄屋志賀氏

寛永６年（１６２９）長崎奉行の竹中采女正重義は、同郷同族の２代志賀親勝を浦上村淵掛の庄屋に命じ、名字･帯刀も許可した。以後、志賀家が庄屋を世襲し、寺野・竹ノ久保・稲佐・船津・平戸小屋・水ノ浦・瀬ノ脇・飽ノ浦・岩瀬道・立神・西泊・木鉢・小瀬戸を支配した。安政３年（１８５６）の「浦上村淵惣竈目録」（御用留）によれば、料高６６４石余、竈数２２８（百姓１５２、名子２６、漁師５０）、家数５７３軒、人数３，５８３人であった。村民はすべて浄土宗悟真寺の檀家で、踏絵は正月１６日と１７日の２日間行われた。

文化元年（１８０４）ロシア使節レザノフの来航、文化５年（１８０８）イギリス船フェートン号の長崎港侵入以降、長崎港の警備体制が強化されると、長崎港西岸に位置する浦上村淵掛もその体制に組込まれ、庄屋志賀氏の役割も大きくなった。

志賀家の庄屋屋敷が稲佐郷に移転した年は不明であるが、慶応２年（１８６６）志賀家の墓地は１２代親憲によって寺野郷から稲佐の悟真寺墓地に移設されている。

３、寺野郷

寺野郷は、安政３年の同資料によれば、竈数４９（百姓３３、名子１６）、家数８０軒、人数４５０人であった。浦上村淵掛の他郷と比較すると平坦地が多く、農業生産には適した土地柄で、竈数、家数、人数は多かった。

郷民は、浄土宗悟真寺から後に浄土宗聖徳寺の檀家に寺替している。姓は永田、池田、久松、井手が多い。墓地は２か所あり、寺野郷共有地として現在も管理されている。

明治１１年（１８７８）浦上村淵掛は浦上淵村となった。明治３１年（１８９８）浦上淵村の内、寺野郷と木鉢郷以外の郷は長崎市に編入、寺野郷は浦上山里村に編入された。

大正９年（１９２０）浦上山里村は長崎市に編入され、大正１２年（１９２３）郷名廃止により寺野郷は、城山町１・２丁目となった。

４、旧城山町の開発

城栄町（旧城山町）商店街

日本は、第一次世界大戦後、経済は好況となり、都市部では人口が増加し、住宅不足となった。

当時の長崎市は、人口約２０万人、全国でも１０番目位の都市であった。旧市街地には住宅街を開発する余地はなく、大正１２年長崎市に編入されたばかりの旧城山町内（現在の城栄町）に、道路が碁盤の目のように整備された市営住宅２７０戸が造成された。商店街も形成され、同年、城山尋常小学校も創設された。昭和２年（１９２７）には、私立の城山幼稚園も創設、旧城山町は急速に宅地化された。

５、原爆の被害

旧城山町は、原爆落下中心地から約２５０ｍ～１５００ｍの範囲にほとんどの住宅があり、原爆により大きな被害を受けた。「原爆被災復元調査事業報告書」（長崎市国際文化会館、昭和５５年３月発行）をもとに計算した結果、死亡２，２５４人、生死不明４０６人、生存１，０６４人と推計される。（人数は昭和２０年１２月末現在。但し寮などの１人世帯を除く。）

６、戦後の旧城山町

昭和４１年（１９６６）城山町は、町界町名変更により、城栄町・城山町・若草町・青山町・富士見町・花園町･金堀町･立岩町･岩見町の９町に区分された。（城栄町は油木町・大橋町の一部を吸収、岩見町は竹の久保町の一部と合併）

昭和５５年（１９８０）金堀町と立岩町の山林部分に住宅団地が造成され、昭和６２年（１９８７）城山台１・２丁目と命名された。

本稿は令和７年９月の定例会での発表要旨である。

引用文献

長崎市立博物館『長崎の史跡（北部編）』
　平成１４年（Ｐ．５３、Ｐ．１０１）
長崎市教育委員会『長崎市の文化財』平成１０年（Ｐ．１６２）
竹内理三『角川日本地名大辞典４２長崎県』角川書店
　昭和６２年（Ｐ．５２７、Ｐ．５２８、Ｐ．６５０）
熊弘人『わが町の歴史散歩(２』)新波書房
　平成６年（Ｐ．２５７）
『長崎新聞』昭和５９年３月１０日